日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜ 第30号 ＞

2015年8月

*2015年8末までの訪問で被災地支援の演奏は、11年4月から通算178回となりました。

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団　〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1　TEL 03-5378-6311　FAX 03-5378-6161

5年目の被災地　もう一度「忘れてはいけない」と、心に刻みましょう
私たちは「被災地に音楽を」送り続けます

あの3・11から4年が過ぎました。そして日本フィル「被災地に音楽を」の活動は、5月1日から5年目に入りました。
私たち日本フィルはこの4年間の活動を通じて、「音楽」が人と人、人と場所を結びつける重要なコミュニケーション・ツールだということを改めて実感しています。
震災直後、授業さえままならない混乱の中、生徒と顧問の先生の熱意で吹奏楽部が再興し、現在では吹奏楽コンクールの全国大会で連続して上位入賞を果たしている、福島県南相馬市立原町第一中学校吹奏楽部に、クリニックで訪問しました。
春休み恒例の南相馬は4回目。昨年11月杉並区の「荻窪音楽祭」で、杉並区の中学生と日本フィル楽員と共演し、感動的な演奏を繰り広げた原町第一中学校（以下、原一中）吹奏楽部へのクリニックと、近接の原町第二小学校（以下、原二小）でのコンサート・クリニックに行きました。

4月30日、まずは金管五重奏メンバーが先乗りし、福島駅からバスで沿岸部の相馬市に向かいます。途中の飯館村は、まだ夜間は立ち入り禁止で汚染土を詰めた青や黒のビニール袋が山影のあちこちに山積になっています。
5月1日は金管五重奏メンバーの原二小でのコンサートとクリニックです。メンバーはトランペット橋本洋、松木亜希（賛助）、ホルン原川翔太郎、トロンボーン岸良開城、チューバ岩井英二（賛助）。卒業生の半数が原一中に進学し、金管楽器の合奏部もある原二小は全校児童が180人。校長先生のお話しによると、震災以降児童数は半減、外気に触れる時間を少しでも減らそうと、登下校は親が車で送り迎えするケースも多い、とのこと。1年生～6年生の児童（全員が制服姿！）は、「ディズニーソング・メドレー」等を楽しみました。その後、ホルン・トロンボーン・チューバの児童に対しクリニックを行ないました。

5月2日からは、原一中でのクリニックです。この日からオーボエ松岡裕雅、フルート鈴木章浩（賛助）、クラリネット石井一成（賛助）、ファゴット鈴木一志、サックス坂東邦宣（賛助）、ユーフォニウム黒沢ひろみ（賛助）、コントラバス黒江浩幸（賛助）、打楽器三橋敦も合流し、総勢13名は過去最多の講師陣です。特にコントラバスとサックスは今回が初めての講師参加で、4回目にして原一中吹奏楽部の全パートが一度にクリニックを受けました。

午前中は原二小の児童も参加し、基礎練習が中心。午後はコンクールの課題曲のパート練習と合同合奏。更には金管五重奏メンバーによるアンサンブル鑑賞と、盛り沢山の一日です。楽器初心者で今年4月にクラブに入部したばかりの新人に、卒業したら、原一中でクラブに入ることを期待されている原二小生も混じり、基礎練習は時間をかけて行われました。午後は、全日本吹奏楽コンクールの課題曲のパート練習と、顧問の阿部先生指揮による合奏練習です。合奏練習では講師も演奏にも参加し、パートに限らず、合奏全体に対する指示が飛び交い、緊張感溢れる中、メキメキと合奏のレヴェルが上がっていきます。
そして、今日のクリニックの最後は、金管五重奏メンバーによるアンサンブルを鑑賞し、生徒たちは講師の吹くソロの音色を食い入るように聴き入っていました。

5月3日の最終日は、コンクール自由曲のパート練習が中心です。初心者の新入生が吹くにはかなりの難曲ですが、集中力を保つよう、講師が気を配りながら効率の良いクリニックが行われました。この日の合奏練習（写真右）も熱気に溢れ、阿部先生と講師の指示で少しずつ縦の線が合ってきました。阿部先生も手応えを感じている様子です。
時間はあっという間に過ぎ、練習後、各パートのリーダーから、担当講師に向けた感謝の言葉が贈られました。感激のあまり声を詰まらせる生徒もおり、とても温かい空気が流れていました。
全員で記念撮影をし、最後に木管五重奏メンバーによるアンサンブルが演奏され、生徒たちは楽器毎に特色ある音色をかみしめていました。名残惜しくも講師の乗ったバスを、生徒全員が見えなくなるまで手を振って送ってくれました。
かつては60人の部員を誇った原一中吹奏楽部、震災直後20人にまで激減しましたが、今年の新入生含め40人にまでになりました。
阿部先生の「講師の先生方のアンサンブルを聴いて、楽器本来の持つ音色を再認識しました。その音色を目標に頑張りたい。」の言葉も印象的でした。生徒たちがこの地で目標を持って生きていくことが、何より大切であることを再認識し、「今後も継続して行きたい」との思いを新たにしました。
尚、今回の訪問では、原一中吹奏楽部生のお母様3名が、ボランティアで講師の世話をしてくださいました。またNPO法人自然環境応援団の上條大輔さんが現地での移動等のコーディネートしてくださり、株式会社三菱UFJニコスがサポートしてくださいました。

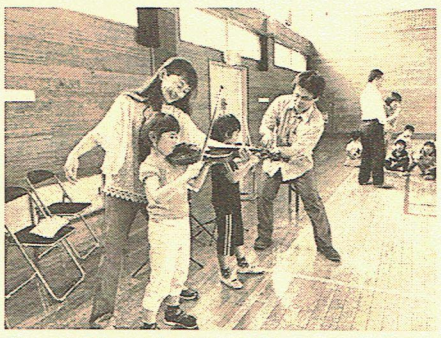
街は丸ごと工事中！～ 5月と6月に岩手県山田町、宮古市に行きました

岩手県への訪問は下閉伊郡山田町。盛岡まで2時間、宮古経由で3時間。遠いです！小さな街は丸ごと工事中という雰囲気で、沿岸はかさあげ工事、高台は住宅地の造成地工事がすすんでいました。5月29日は高台にある山田高校でカルテットの演奏。震災当日、避難所となった学校です。吹奏楽部の打楽器アンサンブルが歓迎の演奏をしてくれました。生徒たちは震災当時小学校高学年。たくさんの経験をしてきました。先生も含めて熱心に聴いていました

翌5月30日の午前中は山田町北小学校の体育館で学童保育の子供達のコンサート。町内の5カ所から120人くらいの子供がバスでやってきました。元気な子供たちで、ヴァイオリンの新人佐藤駿一郎の楽器のお話に「オー」の歓声。コンサート後はヴァイオリン体験も。やりたい人多数でしたが、じゃんけんで10人が選抜。仮設住宅から通う子どもも多数、両親を亡くした子どもも学童の仲間と元気に遊んでいると指導員から話をききました。

午後は、介護事業所「眺望」でコンサート。眺望というだけに、施設からの山田湾の眺めは最高。牡蠣とホタテの筏がたくさん浮かんでいます。まさに三陸の海の風景です。
開演前に近くの子供クラブの子供たちがやってきてお年寄りたちと風船ゲームをしました。コンサートは「北国の春」の大合唱、好評です。最後は、ヴァイオリン体験、最初は遠慮がちのみなさんも一旦手にすると、とても気持が集中します。嬉しそうな表情が印象的です。

ヴァイオリン体験はどこでも好評です



3日目5月31日の午前中はデイサービスの施設。周りは造成地で見事になにもないところ。朝からタクシーで駆けつける方や、近所の仮設住宅からみんなで歩いて来る人など50名。とても明るくて元気な老人たち。日本の童謡メドレーをロづさんでいる方も。もちろん「北国の春」は熱唱。ここでも若い佐藤さんの楽器のお話は冴えていました。ヴァイオリン体験で、一気に会場は盛り上がりました。

最後は「いっぽいっぽ」というNPOが運営する集会所。狭い会場に50人が詰めかけました。演奏はチェロ以外は立奏、メンバーの皆さんの協力に頭が下がります。
3日間のコンサートをコーディネートをしてくださった方はもともと三重県伊勢市の職員。震災後、職を捨ててボランティアで山田町に駆けつけたという情熱家でした。今、仮設住宅に住んで町役場で復興推進課の仕事をしています。3日間、目の前の演奏を聴いて、子供や高齢者の反応を目の当たりにして「いい仕事してますね～」と興奮していました。用地の買い上げ、かさ上げ工事、宅地の開発、進まない補償交渉、その間にどんどん資材が値あがり、と問題が山済みで、これは大変だと思いました。おまけに賃貸の復興住宅に入るより、家賃のいらない仮設にとどまる高齢者も多いとのこと。役場の職員もたくさん亡くなっていて、復興という言葉の現場は4年目だからこその困難を抱えていると思いました。